

第4回アジア太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-4）の開催結果について

平成9年4月2日
調 査 国 際 室

1. 開催の目的

- ・アジア太平洋地域の宇宙機関及び国際組織の代表による宇宙開発政策等についての意見交換
- ・アジア太平洋地域における宇宙分野の協力のための共通関心分野についての検討等

* 1992年に我が国で開催された「アジア太平洋国際宇宙年会議」での合意を受け、93年9月に第1回アジア太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-1）、94年10月に第2回会議、96年3月に第3回会議が開催されている。

2. 会議の概要

(1) 主催者 : 科学技術庁、宇宙開発事業団、文部省宇宙科学研究所

(2) 開催日程 : 平成9年3月17日（月）～19日（水）
（19日は終日エクスカーショーン）

(3) 開催場所 : ホテルニューオータニ（東京都千代田区紀尾井町4-1）

(4) 参加者 : アジア太平洋地域の宇宙機関・国際機関の幹部等（別添1）
なお、我が国からの主要な出席者は以下のとおり。

科学技術庁 : 大熊官房審議官

文部省宇宙科学研究所 : 的川教授

宇宙開発事業団 : 内田理事長

(5) 概要（詳細：別添2）

1日目 ・基調講演

- ・アジア太平洋宇宙協力ミッションに関する報告
- ・地球観測に関する国際的データポリシーの枠組みについての報告
- ・RADARSAT-1の現状等についての報告
- ・リモートセンシングデータの利用についての報告

2日目 ・利用者のためのAPEC地球観測セミナーの結果紹介

- ・宇宙活動における地域協力についての報告
（宇宙科学、ESCAP等）
- ・地域におけるリモートセンシングネットワークの構築に向けて
- ・議長総括／次回会合について

3日目 ・航空宇宙技術研究所（調布）及び宇宙開発事業団地球観測センター（鳩山）の見学（終日）

A P R S A F - 4 参加者リスト

Bangladesh

Dr. Anwar Ali
Chief Scientific Officer, Bangladesh Space Research
and Remote Sensing Organization

Canada

Mr. Marcel St-Pierre
Manager, Market Development and Commercialization
Radarsat Operations, Canadian Space Agency

Dr. Frederick Campbell
Manager, Program Development Geomatics Canada,
Canada Centre for Remote Sensing

China

Mr. Cheng Yongzeng
Vice Director, Department of Foreign Affairs, China
National Space Administration

Prof. Chen Shupeng
Consultant, National Remote Sensing Center

Prof. Joe C.H. Zhou
Director, State Key Laboratory of Resources &
Environment of Chinese Academy of Sciences

India

Dr. K. Kasturirangan
Chairman, Indian Space Research Organization (ISRO)

Dr. George Joseph
Director, Space Agency Centre, ISRO

Dr. S. Srinivasan
Director, Vikram Sarabhai Space Centre, Trivandrum

Mr. K.R. Sridhara Murthi
Scientific Secretary, ISRO

Mr. Jacob Ninan
Head, International Cooperation, ISRO

Indonesia	Prof. Wiryosumarto Harsono Chairman, National Institute of Aeronautics and Space
Korea	Dr. Keun-Ho Chang President, Korea Aerospace Research Institute Prof. Soon Dal Choi Director, Korea Advanced Institute of Science and Technology Dr. Dongseok Shin E. E. Department, KAIST Satellite Technology Research Center (SaTReC)
Malaysia	Mr. Nik Nasruddin Mahmood Director, Malaysian Centre for Remote Sensing
Mongolia	Dr. Badarch Mendbayaryn Director, National Remote Sensing Centre of Mongolia
Nepal	Dr. Swoyambhu Man Amatya Director, Forest Research & Survey Center
New Zealand	Ms. Stella Elizabeth Bellis Scientist, Image Processing Team, Landcare Research
Pakistan	Mr. Sikandar Zaman Chairman, Pakistan Space & Upper Atmosphere Research Commission
Singapore	Prof. Yean Joo Chong Director, Vital Technology
Sri Lanka	Dr. Sanath Padmasiri de Alwis Deputy Director, Arthur C. Clarke Center for Modern Technologies
Thailand	Dr. Paibul Ruangsiri Director, Remote Sensing Division, National Research Council of Thailand
Viet Nam	Dr. Hoang Viet Giao Scientific Secretary, Vietnam National Council for Space Technology Application

(国際機関など)

ESCAP

Dr. He Changchui
Chief, Space Technology Applications Section/ESCAP

ISU

Dr. George P. Haskell
Vice-President for Academic Services & Outreach,
International Space University

(在京大使館)

インド大使館

Dr. V.T. Chitnis
Counsellor (Science & Technology) Embassy of India

インドネシア大使館

Dr. Sujatmiko
First Secretary,
Embassy of the Republic of Indonesia

パキスタン大使館

Mr. Mian Shuhail Aslam
Embassy of Pakistan

ロシア大使館

Mr. Yuri Smirnov
Counsellor, Embassy of Russian Federation

Mr. Andrei E. Lapshin
Trade Representative of the Russian Federation

Mr. Victor A. Shapovalov
Third Secretary, Embassy of Russian Federation

1 日目：

①「基調講演」

- ・ バダーチ・モンゴル国立リモートセンシングセンター所長からモンゴルにおけるリモートセンシング及び地理情報システム技術（環境管理、自然災害監視等）の応用について紹介があった。
- ・ カストリランガン・インド宇宙省次官兼インド宇宙研究機関総裁から、インドにおける宇宙活動（通信、地球観測、宇宙科学及び協力）について紹介があった。

②「アジア太平洋宇宙協力ミッションに関する報告」

科学技術庁から、昨年のAPR S A F-3の提言を受けてインド、韓国、中国、モンゴルに派遣されたアジア太平洋宇宙協力ミッションに関して紹介しつつ、小型衛星及びリモートセンシングに関する協力を呼びかけた旨報告した。

③「地球観測に関する国際的データポリシーの枠組みについての報告」

国際宇宙大学から、同大学が開催したデータポリシーワークショップにおける結論として、データポリシーの作成にあたっては、データの種類よりデータ配布の目的（研究、商用等）の観点からアプローチするのが適当であるとの報告がなされた。

④「RADARSAT-1の現状等についての報告」

カナダ宇宙庁からRADARSAT-1の現状とデータポリシーに関する報告が行われた。

⑤「リモートセンシングデータの利用についての報告」

（ADEOS利用研究等）

セッションチェアマン：デ・アルビス氏（スリランカ）

リードスピーカー：宇宙開発事業団 地球観測推進部 春山主任開発部員
カナダ・リモートセンシングセンター キャンベル氏
宇宙開発事業団 地球観測データ解析研究センター
下田招聘研究員

- ・ リードスピーカーから、ADEOSの現状とデータポリシー、RADARSATの現状、ADEOSの利用研究について報告があった。出席者から、ADEOSに搭載されているセンサに関する質問及び、衛星データの利用コストに関して、途上国に対しては比較的安価なコストを設定するべきとの意見があった。

⑥「リモートセンシングデータの利用についての報告」（パイロット計画）

セッションチェアマン：アマティア氏（ネパール）

- リードスピーカー：宇宙開発事業団 地球観測推進部 後藤参事
- ・ リードスピーカーから宇宙開発事業団が来年度から開始する、タイでのパイロット計画について説明が行われ、出席者からタイでの地上局がカバーしている国々も参加できるようにしてほしいとの要望があった。

2 日 目 :

①「利用者のための A P E C 地球観測セミナーの結果紹介」

- ・ 科学技術庁から同セミナーの開催結果の紹介が行われた。

②「宇宙活動における地域協力についての報告」

セッションチェアマン：マームード氏（マレーシア）

リードスピーカー：宇宙科学研究所 的川教授

リモートセンシング技術センター 根岸課長

宇宙開発事業団 バンコク駐事 塚本所長

E S C A P ハー課長

- ・ 的川教授から宇宙科学研究所におけるアジア太平洋諸国との国際協力の現状について報告があった後、太陽観測衛星「ようこう」のビデオが紹介された。
- ・ 根岸課長より、リモートセンシング技術センターが行っている各種トレーニングコースは、アジア太平洋地域での技術涵養に役立っている旨の報告があった。
- ・ 塚本所長（バンコク駐事）から、日本の衛星データが利用されない理由として、データの存在が知られていないこと及びデータ入手の方法がわからない等の調査結果が報告された。利用の促進には、共同研究やパイロット計画の実施が有効であることが示唆された。
- ・ E S C A P のハー課長からは、地域の各種イニシアチブのハーモナイゼーションを含めた E S C A P の活動について報告があった。

③「地域におけるリモートセンシングネットワークの構築に向けて」

セッションチェアマン：アンワール・アリ氏（バングラデシュ）

リードスピーカー：宇宙開発事業団 地球観測センター 笹田開発部員

地球観測推進部 後藤参事

- ・ リードスピーカーから地球観測センターのネットワークの説明があった。また、地域における情報ネットワークの構築のために、データ供給者と使用者から構成されるコミュニティを形成し、自然災害等の緊急な社会ニーズに対処する情報交換システムの提案があった。各国からは、このようなシステムは有用であり、実現される必要があるとの意見が出された。

④「次回会合開催について」

第 5 回アジア太平洋地域宇宙機関会議（A P R S A F - 5）について、モンゴル（モンゴル国立リモートセンシングセンター）及び日本（科学技術庁、宇宙開発事業団及び文部省宇宙科学研究所）の共催で、来年 6 月下旬頃、モンゴルにて開催することとなった。